



場面1

NO.①「友だちにえんぴつをかしてと言われた」

この場面で考えたいこと

これは、子どもたちの間で日常的に起こる基本的なコミュニケーションの場面です。「貸す」という親切な行動を促すだけでなく、もしそれが自分にとって最後の1本だったらどうするか、貸したものが返ってこなかったらどう思うかなど、簡単な状況設定の中に「自分の状況を伝える」「相手にお願いする」といったソーシャルスキルの芽が詰まっています。

《ねらい》

1. 困っている友だちに気づき、助けようとする気持ち（向社会性）を育む。
2. 物の貸し借りにおける基本的なルールやマナーを学ぶ。
3. 自分の状況に応じて、適切な判断（貸す／貸せない場合は断る）ができるようになる。



1. 感情の理解とコントロールに関する問い 🤔

- ・（イラストを見せて）鉛筆がなくて困っている女の子は、今どんな気持ちかな？
- ・「かして」とお願いするとき、どんな気持ちだろう？（例：ドキドキする、断られたらどうしよう）
- ・もし君が「えんぴつをかして」と言われたら、どんな気持ちになる？（例：いいよ！、ちょっとめんどくさいな、嬉しい）
- ・もし、それがお気に入りの鉛筆や、最後の1本だったら、貸してあげるのに迷う気持ちは出てくるかな？それはどんな気持ち？

《指導のポイント》

「快く貸してあげる」という理想だけでなく、「ちょっと嫌だな」「迷うな」といった正直な気持ちも引き出し、それを認めてあげることが大切です。「どんな気持ちも、まずはOK」という姿勢で、子どもが本音を話しやすい雰囲気を作りましょう。

2. 適切な応答と行動に関する問い 🧠

- ・「いいよ」と貸してあげるとき、どんな表情で、どんな言葉を添えると相手は嬉しいかな？（例：笑顔で「はい、どうぞ」）
- ・貸してあげた鉛筆は、いつ返してほしい？それを相手に伝えるには、なんて言えばいいかな？（例：「休み時間が終わったら返してね」）
- ・もし最後の1本で貸せないとき、相手を傷つけずに断るにはどう言えばいい？（例：「ごめんね、これ最後の1本なんだ。先生に借りたらどうかな？」）
- ・鉛筆を貸してもらった女の子は、返すときにどんな言葉の言うときと素敵かな？（例：「ありがとう、助かったよ！」）

《指導のポイント》

行動の選択肢を具体的に示します。特に「断り方」は重要なスキルです。ただ「ダメ」と言うのではなく、「理由」と「代替案」をセットで伝える（アサーション）練習をすることで、相手との関係を損なわずに自己主張ができるようになります。

3. ポジティブな行動への転換に関する問い ✨

- ・友だちに「ありがとう」と言われたら、どんな気持ちになる？
- ・人に親切にすると、自分も相手もハッピーな気持ちになるのはなぜだろう？
- ・物の貸し借りで、これからも友だちと仲良くしていくために、一番大切なことは何だと思う？（例：感謝を伝える、約束を守って返す、大切に使う）
- ・自分が忘れ物をして困らないように、前日にできることは何があるかな？

《指導のポイント》

親切な行動がもたらすポジティブな感情（自己有用感）に焦点を当て、行動を強化します。また、個別の場面から「友情を維持するための普遍的なルール」へと子どもの思考を広げます。最後に、問題の根本的な予防策（自己管理）にまで話を繋げられると、より学びが深まります。